

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	アミーユ豊中南曽根
(ユニット名)	シンビジウム
所在地 (県・市町村名)	豊中市曽根南町二丁目12-25
記入者名 (管理者)	森本 高枝
記入日	平成 21年 3月 15日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	平成19年の評価で改善課題とされ、独自の理念を作り個性の尊重を主に日々のケアにあたっていたが、地域密着型サービスとしての理念ではなく、平成20年の評価時にも改善課題とされており、地域密着型サービスの役割を理解し、反映した理念を作り上げる。	○	地域密着型サービスを反映した理念を作成し、地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えられる理念をつくりたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念は1階玄関と各ユニットに掲示されている。職員全員と管理者は理念を共有し実践に向けて取り組んでいる。		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	理念は1階玄関と各ユニットに掲示されているが、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組みを行っていない。	○	家族来訪時や地域の人々が立ち寄った時に掲示されている理念についての取り組みや説明を行ない、理解して頂けるようにして行く事が望まれる。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている</p>	校区の行事に参加したり、ホーム内の行事に地域の方々にボランティアをお願いする事により、隣近所の人々に知って頂く事で気楽に声をかけて下さるようになった。また地域包括支援センターが行う地域教室の開催時に場所を提供する事で気楽に立ち寄ってもらえている。		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に加入して、年間行事予定に地域活動を組み込み、地域や校区の行事に利用者と一緒に参加している。地区の清掃活動や歳末夜間パトロールには利用者と一緒に参加している。校区の文化祭に利用者の作品を出展している。市が主催する「いきいき長寿フェア」には職員が手伝いの参加をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者や、高齢者を支える家族や他事業所に、当事業所へ来ている医師や薬剤師などの協力を得て講習会を行うなどの地域貢献ができるように話し合い、取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を理解し、事前に全職員から気付いた事柄や改善すべき点などの意見を聞いている。年1回外部のリサーチ会社に依頼して、家族と利用者へ送られたアンケートの回答を分析し、状況を把握し、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催する運営推進会議では、ホームの運営についての報告や今後の取り組みについて説明し、外部の出席者からの意見や希望を聞いている。毎回会議録を全職員に回覧し、サービス向上に向けて取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市の事業者連絡会の役員や地域密着型サービス検討部会一員として会議に出席して、市担当者との連携に務め、市の主催行事に積極的に参加している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業、成年後見制度の理解に務めているが、利用者が活用するための関係機関への支援について、情報を各ユニットと玄関に置いて、回覧できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、定期の研修の題材で取り上げ職員全員で理解を図る機会が設けられている。職員による虐待防止については、夜間の休憩の徹底や、職員の勤務構成を変化させることによりゆとりのある人員配置を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や契約解除の際、重敏な時間をとり説明を行なっている。納得を得た上で手続きを進めていくように、途中で疑問点を伺いながら説明を行なっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>月1回介護相談員に訪問して頂き、利用者の意見や不満、苦情を聞いてもらい、意見をまとめてもらっている。職員は月に1度ご意見・ご要望カードに利用者の要望を聞き取り記載し提出している。聞き取った要望を年間集計し、運営に反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回GH新聞を発行し、担当の職員より利用者の近況を家族に知らせている。処方されている薬情報はコピーを同封している。利用者の状態の変化など、その都度家族に電話連絡やメールにて報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の中で家族からの意見、要望を聞いたり、家族が来られた時に話しやすい雰囲気を作り、家族の希望を聞いて記録にまとめて運営に反映している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年間で行われる、各評価や監査などでは職員全員で準備の取り組みを行い、評価や監査後には意見や提案を聞く機会を設け、次回に反映させている。また個人面談も随時行っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者、家族の状況や個別の要望にそって必要な支援を提供していくために、個別の要望の聞き取りを行い、勤務の調整に努めている。必要時には管理者や看護師が対応を行っている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は極力避けている。必要に応じて対応できるように、引継ぎ期間を持つようにしている。離職に至るまでに話し合いの機会を持つ事により、最小限に抑える努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で職員研修会を段階に応じて定期的に行っている。職員が法人主催の合同研修に参加している。管理者や計画作成担当者は地域で実施される研修会に参加して、内部研修に活かしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会や地域ネットワーク会議に参加し、情報の交換などを行ない、サービスの質の向上に反映させている。隣接する介護付き有料老人ホームとの合同行事や職員の合同勉強会をしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	夜勤中1時間は各ユニット交代でユニット外での休憩を行っている。行事などがかさならない月は希望者には順番に公休と有給の組み合わせで連休が取れるように勤務調整している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	社内研修により実力を把握し、年1度努力や実績を評価している。また資格取得の支援を行っている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の面談の回数を出来るだけ多くもつようにしている。ユニットの職員と一緒に会いしてなじみの関係が早く築けるようにしたり、見学時に他入居者様と一緒にお茶を飲んで頂ける時間を設けるなど、出来る限り入居に関しての不安の軽減に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にお会いする回数を多くもつように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、要望をもとに、必要なサービスを見極め、事業所として出来る対応を行うが、必要であれば、他のサービスの提案を行う。家族や地域のボランティアの協力も含めて本人様にとって良いサービスの提供に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学時に他入居者様とお茶を飲む機会を設けるなど、必要であれば何度でも来て頂き、馴染みの関係を築き、納得した上でご契約して頂いている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事などできる事は一緒に行い一緒に過ごす関係を築く機会を多く持つ事により支えあう関係を築くように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日常の報告と共に、ご家族との散歩や外食等をスケジュール化できる事は相談の上ケアプランに反映させ家族の参加をお願いしている。毎月のGH新聞では行事のお知らせを行い、ご家族をお誘いしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に日常の報告すると共にご家族のご希望やご意見を伺い本人様との良い関係が築いていけるように努めている。無理のない限り家族の面会頻度は多くお願いして、家族としての役割を支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普通の生活(障害を持つ前の生活)の情報を聴集めるする事により馴染みの人や場所を知り出来る限りの支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ユニット内にコーナーを作り、気の合った方々が少人数で利用できる空間を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了された方のご家族様へ必要に応じて連絡をとり、ご家族の悩み等をお聞きしている。年賀状や暑中見舞い等送る事で関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事業所独自の介護計画に、家族からの情報など利用者の生活習慣、生活リズム、状態の経過などをきさいして希望を把握し、それに沿った暮らし方ができるように計画している。把握が困難な場合は生活歴、行動の観察、本人の言葉＋自分に置き換える事で希望の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事業所独自の介護計画により入居情報に生活歴にサービス利用のきっかけや経過を記載して、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ADL表・生活目標プランと共に1週間のスケジュールを決めており、カンファレンスで話し合われ、それぞれの状況を把握しながら日々の生活のスケジュールを作成している。また、日々のスケジュールはカンファレンス後毎週更新されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	週1度のGHカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。カンファレンス前に職員は、それぞれ自分の担当の入居者様の情報と家族の情報を持ってカンファレンスに参加している。カンファレンスでは合わせて往診での指示も申し送っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1度の見直しを行っているが、退院直後や変化が生じた場合は状況に応じて本人・家族・医師等と話し合い即時に計画を変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践・結果、気づきや工夫は個別の介護記録に記載している。介護記録以外では申し送りノートに記載している。毎週のカンファレンスで情報を共有し対策を考えている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特定施設や近隣の同グループの特定施設やグループホームと合同で日帰りバス旅行など行ったり、行事に参加している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事参加について運営推進会議で話し合い、地域の運動会や清掃、文化祭に参加している。また、介護相談員の受け入れを行っている。年2回消防計画書を提出し消防訓練を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	運営推進会議時に地域包括支援センター職員等に他のサービス利用などの相談を行っている。また、同グループへの転居などの相談も行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に定期的に参加して頂いているため、助言等を頂ける機会がある。また包括支援センター主催の地域教室の場所を提供し興味がある入居者様には参加して頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度定期往診を行っている。24時間連絡できる体制があり、必要に応じて指示を出して頂いている。また、状態が良くない場合は往診医師より他の病院への紹介をしてもらっている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの対応や接遇について話し合いの場を設けている。個人情報の取り扱いに関してはパソコンはパスワードで管理し、また電話や来訪者の対応を統一する事により厳重に対処している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人様の希望はそれぞれの理解力に合わせた方法で納得して頂いている。出来る限り希望に添えるように支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	優先順位を考慮した援助を行う事により、一人ひとりのペースを大切に援助を行っている。生活歴や本人様の訴え、行動観察をすることにより出来る限り希望に添って支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人様の望む理容・美容院へ行けるように援助しているが、遠方である場合が多く、近隣の理容・美容院へ送迎している。訪問理容を希望される方へは連絡をとり来て頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備の段階で味見をして頂いたり、好みの形態をお聞きし、調理を行っている。洗い物は入居者様にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒や飲物やおやつは好みの物を提供している。現在は喫煙される方はおられないが、以前は窓際にコーナーを設けて自由に喫煙される方もおられた。一人ひとり自由な嗜好を楽しめるように支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要に応じて排泄チャートを取り、排泄パターンを把握し援助を行っている。また必要があれば泌尿器科往診を受けていただいている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望やタイミングで入浴できるように努めているが、人員の配置により毎日入りたいと言う希望や夜間の入浴は現在できていない。	○	入浴の希望にこたえられるよう人員配置を検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自由に移動できる方はご自身にお任せしているが、移動できない方に関しては休息の時間を設けて、居室やリクライニングの椅子へ移動の援助をおこなっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	事業所独自のケアプランに応じて役割や楽しみをそれぞれに支援できるように努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の現金を管理できる方は、居室内に金庫を設置して頂きご自身で管理して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日は難しいが、お天気の良い日には戸外に出かけられるように支援している。また面会に来られたご家族様には散歩や外出・外食などに行ってもらっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月日帰りバス旅行の案内を行っている。また、個別にご希望をお聞きし出かける機会をつくり、ご家族と共に支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は習慣や希望に応じて支援していく必要があると思われる。プライバシーに配慮しながら個別に支援を行う取り組みができていない。家族任せになっている。	○	生活歴により習慣があった方や、現在の希望について情報を収集し個別に支援を行う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの人たちの訪問支援を行っている。来訪時にはお茶を持って行き、日頃の様子をお知らせしている。家族のご意見・ご要望の聞き取りなども行っている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、禁止の対象となる具体的な行為について理解している。3月の研修の題材が身体拘束についてであり、職員全員参加している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけていない。居室に関しては、ご自身で鍵をかける方はおられるが、職員が鍵をかける事はない。弊害については身体拘束の研修の中で組み込まれている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、利用者の動きやサインを察知できるように全員の様子をさりげなく見守っています。夜間は緊急時に備えて最も確認しやすいホールの中央で待機し安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に合わせて危険を防ぐ為に取り組んでいます。居室内では状態に応じて物品の保管や管理を行っています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から考えられるリスクは検討を行い、介護計画に記載しています。ヒヤリハット報告書の記載を行い、カンファレンス時に対策の検討を行っています。事故が発生した場合は状況を事故報告書に記載して提出しています。再発の可能性があるとされる事故については再発防止の検討がされています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回消防署に依頼して救命講習を開催している。急変や事故発生時に備え、ユニット毎のマニュアルを作成している。マニュアルには急変の見極め方、連絡手順などが記載されている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。地域の緊急避難場所として登録して、非常食を備蓄している。近隣の人々の協力が得られるように働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	抑圧感のない、慈雨うう名暮らしを支援するために、リスクの可能性のある方については介護計画に記載し、対応策の提案を行っている。安全の為の拘束は弊害の説明を行ない、話し合いを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	現象看護を中心として、いつもとどう違うかという観点より体調の変化や異常を発見したら、速やかに担当医へ連絡を行い指示に従い対応を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬の情報は協力薬局の指導により理解している。誤薬防止のために、一包化された薬の袋に記載されている名前を呼名し確認する事が統一して行われている。心身上の変化を記録し医療者に情報提供を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	既往歴に便秘のある方は原因を探り、介護計画に記載している。自然排便を促すために、個人に応じてオールブラン、ヨーグルト、ヤクルト、ホットパックや腹部マッサージによる予防と対応を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔内整容のケアを行っている。ご自身で行える方へは食後の声かけや見守りを行い、習慣としている。状態に応じて、必要な方へは歯科衛生士による口腔ケアを定期的に依頼している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックをし、利用者一人ひとりの状態に気をつけている。食事制限のある利用者には代替品などで対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修を年2回行っている。利用者、職員共インフルエンザの予防接種を毎年行っている。トイレや手すりの清掃は塩素系漂白剤を使用している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒防止のために、年2回感染症の研修を行い、また食品卸業者の定期的な衛生チェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りや建物周辺は明るく、清潔な印象が持てるように定期的な清掃を行なっている。建物周辺は季節によって花が楽しめるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりが良く、建物は角地にあり周囲はガレージや空き地で静かな環境に恵まれている。廊下や食堂もゆったり広く、ベンチやソファ、小テーブルを置き、落ちついて過ごせる場所が多数提供されている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、独りになれたり、気のあった利用者同士で過ごせるような家具の配置をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が使い慣れたタンスやテレビ、ベッドなどを持ち込み、家族の写真や想いで品で飾られ、居心地良く過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	においや、感染症防止のため、時間を決めて建物の換気を行っている。温度調節は外気温と大きな差がないように、2箇所温度計を配置し1日2回温度計をチェックして介護日誌に記載している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は安全かつ自立した生活が送れるように段差のない建物構造になっている。屋内は、車椅子やシルバーカーの使用が可能である。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を防ぐ為、居室ドアには目の高さに表札を作り居室がわかりやすい工夫をしている。トイレについては、同じ場所への誘導や、わかりやすい表示をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは設置されていないが、外回りや玄関の空間が楽しみ場として活用できるように植木や洗濯物干しに利用している。設置していたベンチが壊れた為新しいベンチの設置を検討中である。	○	玄関の空間を活かして新しい植木やベンチの設置の検討が必要である。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員一人ひとりのスキルアップを支援し職員全体のレベルの向上を目指している。  
入居者様と職員がいつも笑顔で寄り添っているユニットを目指している。